

## デジタル教科書

2023.10.14

中学2年生の社会科の授業を参観した。まず、4月に学習した日本の農業の特色や日本の農業の課題について、教科書を使って振り返っていた。教科書の該当ページを開き、確認していた。そして、高齢化、後継者不足、すなわち若い人が継ぎたがらないことを確認した。そこから、「安定した収入を得るため、どんな工夫をしているか。」という学習課題につなげていた。ワークシートの裏には資料があり、それを先生が読んだ。先生が読むことが重要である。生徒にとって、先生の読みは絶対である。内容も効果的だった。

課題解決では、教科書を見ながらワークシートに記入していた。このワークシートが、教科書をよく読むような形に作られていた。何をやるかがわかるようになっていた。なおかつ、時間を十分にとっていた。この時点で、全員が取り組んでいた。自力解決に全員が参加していた。

教科書から読み取った内容を自分の言葉や文章で書かせた。これは、リーディングスキルそのものである。リーディングスキルでは、社会科の教科書がよく出てくる。文章記述だけでなく、グラフに図、写真、資料と多くの情報が入っているからである。この先生の授業は、教科書を使った読解力を必要とする授業だった。リーディングスキルでは、教科書を使い倒すというが、それができる授業だった。

この先生は、デジタル教科書を使いこなしていた。普段から使っていることは明らかだった。大型テレビには、拡大された教科書の写真やグラフが表示される。とても見やすく、効果的だった。デジタル教科書を使った授業は、今までも見たことはある。今回の授業では、誰でもできそうなスキルの範囲で使っていた。したがって、他の先生方の参考にできる。

また、タブレットのメタモジを使って、教科書の内容から調べたことをまとめさせた。ここでも、十分な時間をとっていた。大型テレビには、一人一人の内容がモニタリングされる。これだと、机間指導がしやすくなるかもしれない。机間指導の在り方が変わってくるかもしれない。

まとめでは、「自分なりの言葉でまとめてみましょう」と投げかけ、ここでも十分に時間をとっていた。生徒に発表させたが、生徒は、なかなかいいことを言う。この時間では、何人かの生徒が発表した。声が小さくない。今後が楽しみである。

まとめを見ると、学習課題とまとめが合っていた。整合性があった。だから、わかりやすいのである。導入から終末まで、何をやっているかがよくわかる授業だった。生徒も同じであろう。この先生は、私が勤務する学校の再任用の先生である。

生徒の思考を考えたワークシート、デジタル教科書、タブレットなどの準備、時間を十分にとって考えさせること、課題からまとめまで、一貫性、整合性のある学習内容など、みんなで見た方がよい授業だった。勉強になることがたくさんあった。デジタル教科書にタブレットと、この前までは、近未来のことかと思っていた。それが、もはや現実のものとなっている。それを使いこなすベテランの先生が目前にいる。この先生の教員としての姿勢に頭が上がらない。